

## 編集方針

「Gunze統合レポート2018」は、Gunzeグループの財務情報・非財務情報レポートとして編集しています。2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)の活動を中心に、一部2018年4月以降の報告も含まれています。また、ご紹介する関係者の所属・役職名は活動当時のものです。

このほか、ステークホルダーの皆さまに、より当社についてご理解いただけるよう網羅的かつ詳細な情報を以下の通りホームページでも公開しています。

### 財務情報

- 株主・投資家情報  
<http://www.gunze.co.jp/ir/>

### 非財務情報

- CSR <http://www.gunze.co.jp/csr/>
- 企業情報 <http://www.gunze.co.jp/corporate/>

このレポートには、Gunzeグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した事項および所信に基づく見込みです。

## 免責事項

# Link to the future

Gunze統合レポート 2018

## Gunze株式会社

〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKA オフィスタワー  
お問い合わせ先: コーポレートコミュニケーション部 広報IR室  
TEL: 06-6348-1314 FAX: 06-6348-4814

<http://www.gunze.co.jp/>

発行 2018年7月



# トップコミットメント

# SDGsに 配慮し CSV経営を強化



グンゼ株式会社  
代表取締役社長 **廣地 厚**

当社の創業者である波多野鶴吉は、「善い人が良い糸をつくる」との信念のもと、生糸の品質を向上させるために工女（従業員）の教育に力を入れました。当時は「表から見ると工場、裏から見ると学校」と評され、「人を大切にす、人を育てる、人を生かす」ことは変えてはならない当社不変の経営理念として今日まで受け継がれています。

120年を越える歴史の中で、創業の精神である「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」を経糸（たていと）に、時代のニーズに合わせた事業の展開を緯糸（よこいと）として、変革と挑戦を続けてきました。当社グループのすべての構成員が創業の精神を変えてはならない行動指針として実践し、未来へつないでまいります。

私は昨年4月に社長に就任し、それを機に本社組織を再編、新たに「CSR委員会」と「働き方改革委員会」を立ち上げました。

それまで専任組織中心であった「CSR委員会」は、従来のCSR活動から創業の精神に立ち返り、事業活動自体が社会的責任につながる活動に昇華していくため、いろいろな立場や組織の人たちの知恵を結集し、

全社レベルで取り組みを進めていくこととしました。また、経営戦略部の傘下に「法務コンプライアンス室」を新設、知的財産室との連携強化を図ることで、リスク管理体制を強化しました。

「働き方改革委員会」では、これまでの働き方を見直してワークライフバランスや就労ニーズに対応するため柔軟で創造的な働き方を導入・拡大しています。

当社のCSR活動は従来、職場の風通し向上や一体感の醸成などの社内風土の改革および寄付やボランティアなどの社会貢献活動に注力してきました。そして企業活動が環境・社会に及ぼす影響への責任として、リスクマネジメントを利かせたCSRの実践による企業価値の向上を目指してきました。

今後は、社会の企業に対する期待・要請の変化に伴い、社会を取り巻く課題を本業を通じて解決していく必要があります。

2015年9月、国連総会において2030年に向けた世界的な優先課題および世界のあるべき姿が「持続可能な開発目標（SDGs）」として採択されました。日本政府や日本経団連も、国際社会とともに目標達成を目指しています。

当社においても社会変化を的確にとらえ、自社が有

する技術やノウハウを活用し、新規ビジネス、さらに社会イノベーションを創出し、共通価値の創造（CSV: Creating Shared Value）を成し遂げていかなければなりません。CSVは事業を通じて社会課題の解決を目指す活動で、その考え方はグンゼの創業理念そのものであり、当社のDNAにしっかりと根付いています。今日も経営の根幹として位置付けられ、部門ごとに、あるいはグループ一丸となった取り組みを「自分ごと」として進めていかなければなりません。

私たちは、お客さまへ「こちよ商品、こちよサービス」の提供に徹し、社会に貢献するという強い意志を持ち、「社会にとって必要とされる企業」「社会とともに持続発展する企業」として顧客満足と企業価値のより一層の向上を図ります。

2018年度は中期経営計画「CAN 20（2014年度～2020年度）」の第2フェーズ（2017年度～2020年度）の2年目にあたり、主力商品・主力チャネルの成熟化に対する戦略課題に全構成員の力を結集し、さらなる成長に向けた取り組みを進めてまいります。皆さまのより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 創業の精神

### 人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる

当社は1896年、京都府何鹿郡（現在の綾部市）に地域産業であった蚕糸業の振興を目的として設立されました。当時の社名「郡是製絲株式会社」の郡是は、「郡の是（方針）」として会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかり、地域の人々の暮らしを豊かにしたい」という、創業者 波多野鶴吉の強い思いが込められています。



創業者 波多野鶴吉

## SDGsの17の持続可能な開発目標



SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsへの取り組みについては、2015年9月、国連サミットで2030年までの「持続可能な開発目標」として採択され、世界的規模で17の目標の実現に向けた取り組みが推進されています。



# 中期経営計画「CAN 20」

中期経営計画「CAN 20」では、創立125周年となる2020年度を最終年度とし、「集中と結集」をキーコンセプトにグループ経営ビジョンの実現に向け取り組みを進めています。昨年からスタートした第2フェーズ(2017年度～2020年度)では、第1フェーズ(2014年度～2016年度)の成果・反省を踏まえ、「セグメント事業戦略」「新規事業創出」「経営基盤強化」の3つの基本戦略への取り組みを進めています。

## コンセプト

**集中と結集**  
(Focus & Concentration)

**推進期間** 2014年度(119期)～  
2020年度(125期)の7カ年

第1フェーズ 2014年度～2016年度

第2フェーズ 2017年度～2020年度

## 2020年のありたい姿

### 経営ビジョン

グンゼが持つ強みをさらに強化し、グンゼにしかできない“こちよざ”をお客さまに提供するグローバル企業として社会に貢献する。

### 経営目標

人々のクオリティ オブ ライフ(QOL)の向上に貢献する健康・医療関連分野を成長の核とするとともに、集中と結集によりそれぞれの分野で業界オンリーワンの地位を確立する。

### 第1フェーズの成果

#### メディカル事業の躍進(売上高1.7倍)

- 売上 1.7倍、営業利益 4倍に成長
- 米国向け吸収性組織補強材が伸長

#### アパレル事業の復活(営業利益1.8倍)

- レディスインナーカットオフ、完全無縫製商品のヒット
- レッグウェア▶新規需要創造したレギパンのヒット

#### アパレル分野で小売事業に進出

- ジーンズ・カジュアル ダンの子会社化(M&A)
- 直営店舗開設(アウトレット店、プロパー店)

## 第2フェーズ

3つの  
基本戦略を  
強力推進

## 経営基盤強化

### 生産基盤の強化による競争力の向上

- 現場力強化による強靱な生産体制の構築
- 海外を含めた統一指標によりグループ全体の生産性を向上

### 経営体質の強化

- CSR委員会による戦略的CSRの実践
- 働き方改革委員会による活動推進

## 創業の精神

人間尊重と優良品の生産を基礎として、  
会社をめぐるすべての関係者との  
共存共栄をはかる

## セグメント 事業戦略

### 機能ソリューション事業の成長回帰

- メディカル事業の継続的成長
- セグメントの連携強化による新規領域へ挑戦

### アパレル事業の成長加速

- 新規販路・売場の拡大戦略
- 差異化技術・商品/ブランド/売場編集力の強化による成長加速

### ライフクリエイイト事業の安定的拡大

- スポーツクラブ事業の拡大
- ショッピングセンター事業の強化

## 新規事業 創出

### プロジェクトの事業化促進

- ナイチンゲールプロジェクト(健康・医療事業)、  
エジソンプロジェクト(新規事業の創造)の経営貢献を実現

### M&A活用による事業領域拡大

- 既存事業と関連領域への拡大を積極推進

### 新規テーマ創出の仕組みの構築

- ストレッチプランで事業部門の新領域ビジネスの挑戦促進
- 現行市場に拠らない新ビジネスの探索を継続的に実行



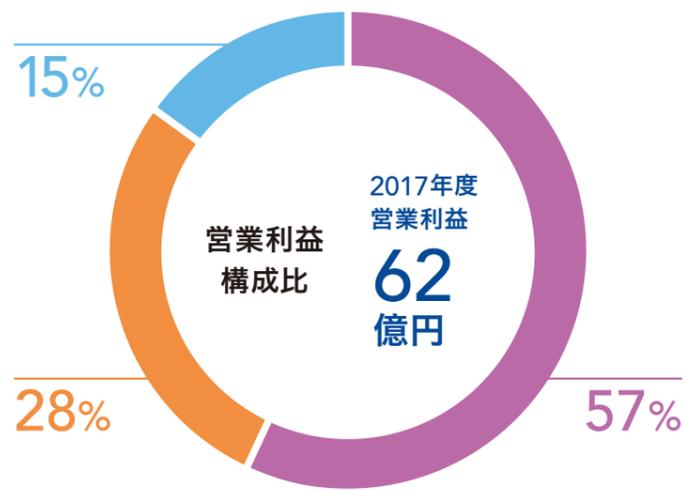
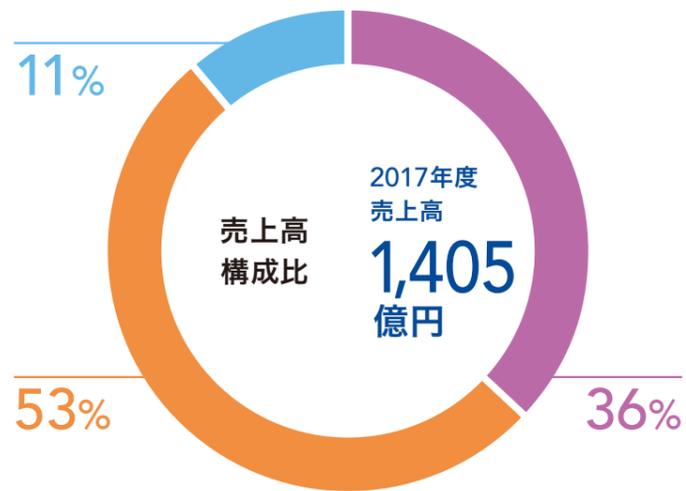
中期経営計画「CAN 20」の詳細情報はWEBサイトで公開しています。  
[www.gunze.co.jp/ir/](http://www.gunze.co.jp/ir/)

# セグメント構成比および事業紹介

## 機能ソリューション事業 (売上高)508億円 (営業利益)53億円

機能ソリューション事業は、ストッキングを包装するパッケージの開発が起点となり、包装フィルムの開発・製造からプラスチックフィルム事業へと発展。現在ではタッチパネルや医療分野の開発にも応用されています。食品やデジタル端末、医療にわたり、グンゼの技術は生きています。

| 製品・サービス  | 概要  | CAN20戦略課題   |
|--|---|---|
| <b>プラスチックフィルム分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● シュリンクフィルム</li> <li>● ナイロンフィルム</li> <li>● OPPフィルム</li> <li>● 軟質多層シート</li> </ul>      | 飲料、食料品、トイレタリー用品や、もやし類などの生鮮食品の包装フィルムなど、生活に密着した商品の開発、製造、販売。<br>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバルマーケティングの強化により、海外販売を拡大</li> <li>● 機能特徴を明確にした差異化商品の開発・展開</li> <li>● プラスチックグループの一体運営による市場競争力の強化</li> </ul> |
| <b>エンジニアリングプラスチック分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 転写ベルト</li> <li>● フッ素薄肉チューブ</li> <li>● 一般産業用機能部品</li> </ul>                      | 複写機やプリンタなどのOA機器や、産業分野の製造工程で使われる機能部品の開発、製造、販売。<br>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高機能、差異化、価格対応&amp;顧客ニーズ対応強化による主力OA機器ビジネスの活性化</li> <li>● 技術活用による新市場創造と高機能化への対応強化(半導体分野向けほか)</li> </ul>         |
| <b>電子部品分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機能性フィルム</li> <li>● タッチパネル</li> <li>● 受託加工</li> </ul>                                      | タッチパネルや機能性を高めた各種フィルムの開発、製造、販売。<br>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機能ソリューションの現有リソース(機能、技術基盤、顧客接点)を活用し、既存ビジネスを強化、新規領域進出へ挑戦</li> </ul>  |
| <b>メディカル分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 吸収性組織補強材</li> <li>● 吸収性骨接合材</li> <li>● 人工真皮</li> <li>● 人工硬膜</li> <li>● 吸収性縫合糸</li> </ul> | 「体内吸収性」に着目した医療機器の開発、製造、販売。QOLの向上、医療従事者の負担を軽減することを目指し、高い技術力により国内に留まらず、グローバルに展開。<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新工場建設、新商品開発への積極的な経営資源の投入</li> <li>● 生産・販売体制整備により事業を拡大し、早期に柱事業へ育成</li> </ul>                                  |
| <b>メカトロ分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 包装・パッケージ向け機器</li> <li>● 印刷機周辺向け機器</li> </ul>  | 包装・印刷・乳業・飲料・食品加工・医療関連の各業界へ省力機器などの機械設備を設計、製造、販売。<br>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存設備の更新、メンテナンスを中心とした展開</li> <li>● 継続的な新商品の開発・展開でビジネスを拡大</li> </ul>   |



■ 機能ソリューション事業  
 ■ アパレル事業  
 ■ ライフクリエイト事業

## アパレル事業 (売上高)740億円 (営業利益)26億円

人の肌に直接触れるものだからこそ「着ごち」を追求し、お客さまにこころよきと感じていただける製品をお届けしています。インナーウェア、レグウェア、ハウスカジュアルウェアから繊維資材、リテールまでお客さまのライフスタイルを考え、新しい価値を創出します。

| 製品・サービス  | 概要   | CAN20戦略課題   |
|--|--|---|
| <b>インナーウェア分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● メンズインナー</li> <li>● レディースインナー</li> <li>● キッズインナー</li> </ul>   | 多様化するニーズに応え、さまざまなコンセプトに基づいたインナーウェアブランドを展開。<br>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 差異化商品の開発強化により、レディース分野を中心に積極拡大</li> <li>● ECビジネスなどの成長拡大</li> </ul>                |
| <b>レグウェア分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ストッキング</li> <li>● レディースソックス</li> <li>● メンズソックス</li> </ul>      | 女性の「美しくなりたい」という思いをかなえるために、ファッション性と機能性の両面からアプローチしたレグファッションを展開。<br>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● NBの発信力強化とメディカル関連商品の開発</li> <li>● 新ライフスタイルの企画拡充</li> </ul>                        |
| <b>ハウスカジュアル分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ナイトウェア</li> <li>● ホームウェア</li> </ul>                         | 素材や機能にこだわったナイトウェアや、ライフスタイルをより楽しむためのホームウェアなどを展開。<br>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフスタイルの提案による新需要の創造</li> </ul>   |
| <b>繊維資材分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 縫製資材用ミシン糸</li> <li>● 産業資材用ミシン糸</li> <li>● 自動車資材用ミシン糸</li> </ul> | 新機能を備えた各種ミシン糸や、より高い安全性が求められる自動車エアバッグ縫製用ミシン糸など、衣料用から各種産業資材に至るまで幅広く展開。<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● コスト競争力強化と販売体制確立によるASEAN、西アジアでの拡販</li> <li>● 顧客ニーズに対応した生産体制と迅速な供給体制の確立</li> </ul> |
| <b>リテール分野</b>  | 直営店、アウトレット、カジュアルウェア専門店などを展開。   |   |

## ライフクリエイト事業 (売上高)161億円 (営業利益)13億円

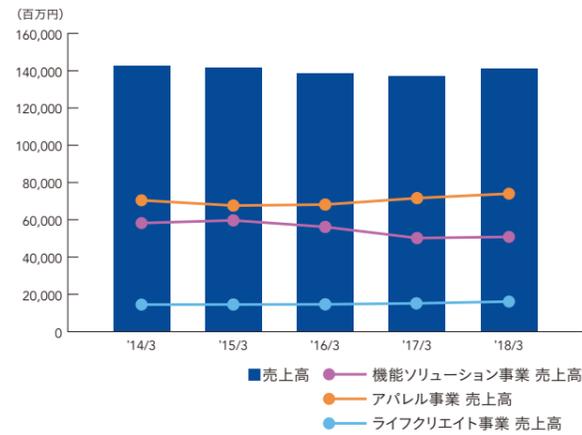
スポーツクラブ事業、遊休地を活用した商業デベロッパー事業、環境ビジネスなど、質の良い製品やサービスによってお客さまのライフスタイルをサポートします。

| 製品・サービス   | 概要  | CAN20戦略課題   |
|---|---|---|
| <b>商業デベロッパー分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ショッピングセンター</li> </ul>                    | 工場跡地や施設跡地に新たな商業施設を設立し、地域住民の皆さまに快適な空間を提供。<br>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「つかしん」にしまち北エリア再開発プロジェクト着手</li> <li>● 「エルミ鴻巣」「前橋リリカ」リニューアルによるコミュニティ型SCの確立</li> <li>● 新規開発の推進(工場跡地の再開発)</li> </ul> |
| <b>スポーツクラブ分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツクラブの運営</li> </ul>                     | 地域に密着したスポーツクラブとして、質の高いサービスとメニューを提供。「スポーツを通じて豊かな心と身体を育み、人々の幸せを支援すること」を使命とし、全国でクラブ運営を展開。<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 好立地での新規出店</li> <li>● スクラップ&amp;ビルドによる体質強化</li> <li>● 海外展開の開始</li> </ul>  |
| <b>緑化分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 樹木販売</li> <li>● 花卉販売</li> </ul>                | 植物材料や苗木の供給を行う「樹木販売」、日々の生活を彩る「花卉販売」、緑あふれる生活環境づくりに貢献する「造園」を展開。<br>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安定供給体制の確立を背景とした全国販売網の構築</li> <li>● 企画・提案型営業手法の確立によるアライアンス型販売の推進</li> </ul>                                       |
| <b>エステイト開発分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 不動産開発事業</li> <li>● 賃貸事業</li> </ul>        | 当社保有の土地活用をベースにエステイト(不動産)開発事業やショッピングセンター、住宅・オフィスビルなどの賃貸事業を展開。  |   |
| <b>エンジニアリング分野</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESCO事業・省エネ診断</li> <li>● 太陽光発電</li> </ul> | 省エネ、省資源、PM診断などのノウハウを活用し、ビルや工場などの省エネ化に向け包括的なマネジメントを展開。   |   |

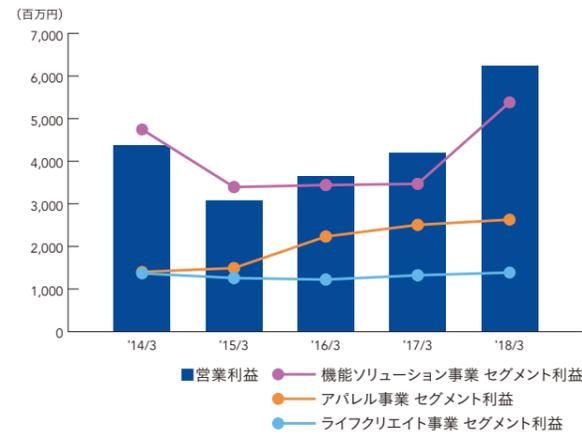


### 財務情報(連結)

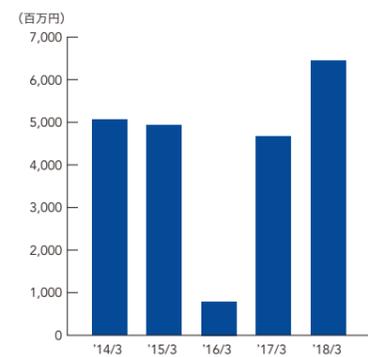
売上高



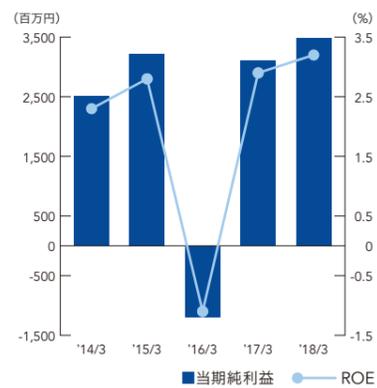
営業利益



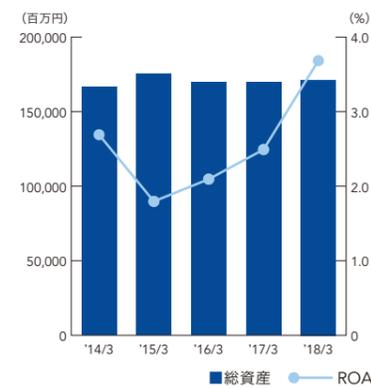
経常利益



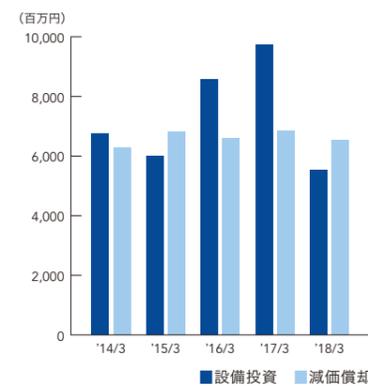
親会社株主に帰属する当期純利益 + ROE(自己資本利益率)



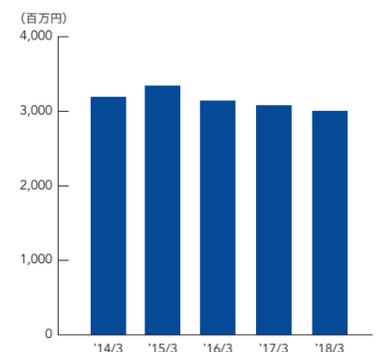
総資産+ROA(総資産利益率)



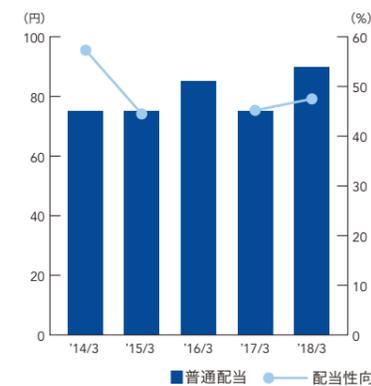
設備投資・減価償却費



研究開発費



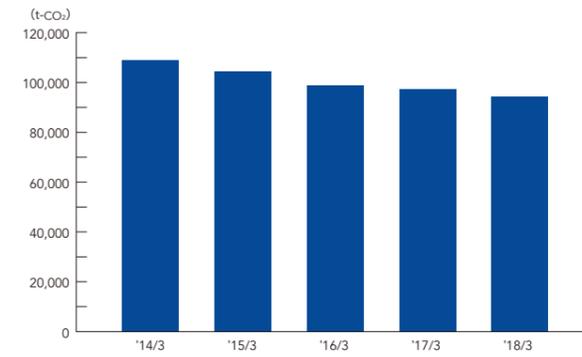
1株あたりの配当金※と 連結配当性向



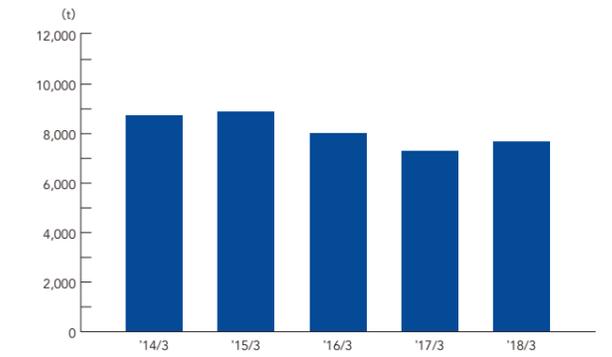
※2017年10月1日付の株式併合(10株を1株)にあわせて、2017年3月以前の1株あたりの配当を換算。

### 非財務情報

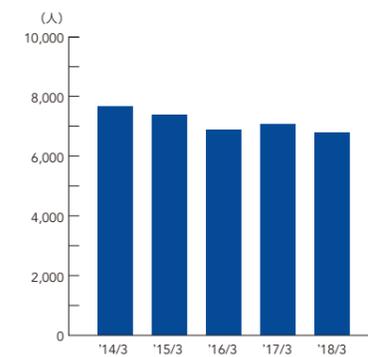
CO<sub>2</sub>排出量(国内)※2



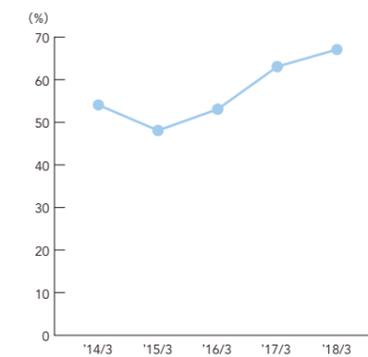
廃棄物総発生量(国内)※2



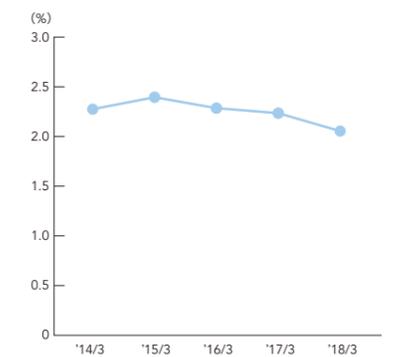
従業員数※2



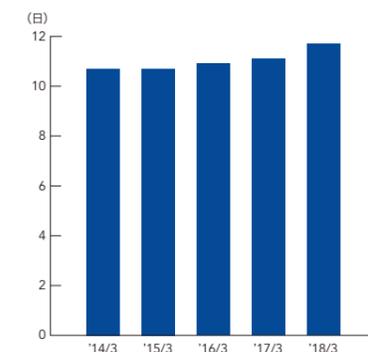
定年後再雇用率※1



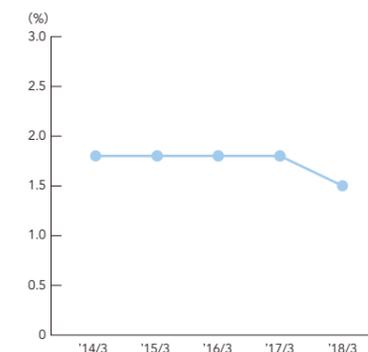
障がい者雇用率※1



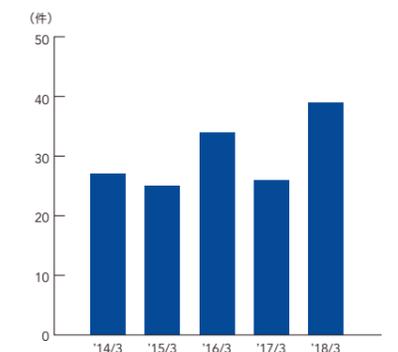
有給休暇取得平均日数※1



管理職に占める女性管理職比率※1



労働災害発生件数※2



※1 グンゼ単体 ※2 連結



# CSR重要課題の持続的な取り組み

当社の創業者である波多野鶴吉の考え方の一つに「社会のため」という荷を加える」というものがあります。これは売上や利益だけではなく「社会のため」という目標を加えることにより、片荷から両荷にしてバランスの取れた経営を目指す、という考え方です。また、創業者は「売って喜び、買って喜び」という言葉も残っています。近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」と同じ考え方です。

当社では昨年度、企業経営に最も関連するCSR重要課題を「グンゼのマテリアリティ」として特定しました。2018年度からは、今一度創業の精神に立ち返り、自社グループが有する技術やノウハウなどのリソースを活用し、本業を通じて社会課題の解決に貢献するCSV (Creating Shared Value 共通価値の創造) という攻めのCSR活動を進めていきます。

2015年国連で採択されたSDGsの17の目標について、社会課題起点で活動を考えるという意味のアウトサイドインのアプローチを参照し、当社グループの4つのマテリアリティに基づいて活動します。部門ごとにCSV目標とKPI指標を設定し、具体的な課題解決にむけた活動を推進していきます。



取締役人事総務部長  
CSR・コンプライアンス担当 赤瀬 康宏

## ESG (環境・社会・ガバナンス)とは

ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったものです。今日では、企業の持続的な成長と関連性が高い「環境対応(E)、社会責任(S)、企業統治(G)」に対する経営的取り組みが必要であるという考え方が急速に広がっています。また、企業の株主である機関投資家を中心に、投資において財務情報のみならず非財務情報であるESGも考慮することが増えてきています。(ESG投資)



### E (Environment) 環境で求められること

- 地球温暖化対策
- 環境負荷低減のための取り組み
- 環境関連ビジネスの拡大
- 事業を通じた環境問題の解決など



### S (Social) 社会で求められること

- 人権啓発の推進・ダイバーシティ向上
- 顧客の安全品質確保
- 従業員・家族の健康増進
- 地域社会の健康促進参画
- 女性活躍推進
- グンゼグループサプライヤー行動規範の遵守
- 事業を通じた社会問題の解決など



### G (Governance) ガバナンスで求められること

- リスクマネジメント体制の構築
- コンプライアンスの徹底
- 災害対策とマネジメント
- データセキュリティとプライバシーの保護など

## マテリアリティ (CSR重要課題) の特定プロセス

グンゼグループは「創業の精神」に立ち返り、本業を通じて社会を取り巻く課題の解決を進めています。

### ステークホルダーアンケートの実施

第1ステップとして、49項目の課題の中からグンゼグループの重要課題を選定するアンケートを構成員(ステークホルダー)を対象に実施。1,184件の回答から課題を上位30項目に絞り込みました。

### CSR重要課題の分類

重要課題として絞り込んだ30項目をもとに、ESGやSDGsの視点、また従業員以外のステークホルダーの意見などと照合し、「ステークホルダーの重要度」と「グンゼグループにとっての重要度」の2軸で総合的に評価し、CSR重要課題をマッピング、優先順位をつけました。



\*アンケート第1位の「ブランド価値の向上」は、課題遂行による結果指標となるので上記から割愛

### マテリアリティの特定

上記、CSR重要課題の分類・マッピングに基づき、中期経営計画「CAN 20」を、スピードをもって達成できるよう、①「QOLの向上への貢献」 ②「緑豊かな環境づくりと環境問題対応」 ③「職場環境改善・働き方改革」 ④「より良いコミュニティ・社会づくり」をグンゼのマテリアリティ (CSR重要課題) と位置付けました。最終的にCSR重要課題は、CSR委員会で審議した上で、グンゼの「マテリアリティ」として決定しました。



\*「より良いコミュニティ・社会づくり」については、各部門CSR推進リーダーによる従前の通年活動で推進。



# QOLの向上への貢献

体内で吸収される医療材料で  
患者さまのこちよい生活を実現しています。

1 QOLの向上への貢献  
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと  
環境問題対応

3 職場環境改善・  
働き方改革

4 より良いコミュニティ・  
社会づくり

## 再生医療の足場となる吸収性材料を中心に 医療機器を展開

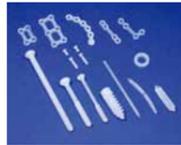
### 吸収性縫合糸

グンゼは吸収性縫合糸を国内で初めて製造。現在では海外への輸出も行っています。体内で吸収されるため抜糸が不要となり患者さまへの負担が軽減できます。



### 吸収性骨接合材

手術後、体内で分解・吸収されるため、取り出すための再手術が不要。外科領域において幅広く使用されています。



### 合成人工硬膜

脳硬膜欠損部に生体組織接着剤を併用して補綴する、無縫合タイプの合成吸収性人工硬膜として用います。特殊加工により若干の伸縮性を付与した不織布です。



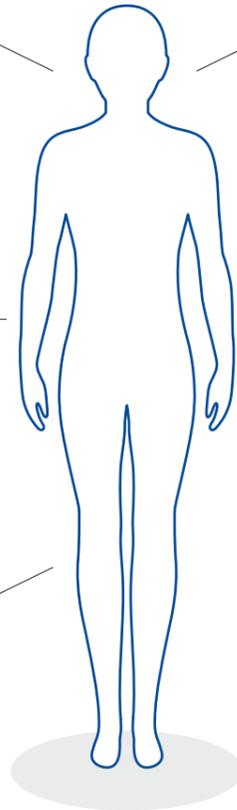
### 人工真皮

コラーゲンスポンジとシリコンフィルムの2層からなる人工真皮。熱傷や外傷などの傷口に貼付するとコラーゲンスポンジが組織再生の足場となり真皮組織が構築されます。



### 吸収性組織補強材

肺や気管支などのデリケートな臓器の欠損部や脆弱性を補強し、臓器の組織の運動や凹凸にも柔軟に対応。グンゼの繊維加工技術が生きています。



## 台湾の事故の負傷者治療に 貢献したグンゼの「人工真皮」

2015年6月に台湾・台北で起きた音楽イベント会場の爆発事故の際、日本赤十字社からの要請に即応し、人工真皮を寄贈しました。この支援活動に対して2017年2月に紺綬褒状を受章しました。現在では台湾をはじめ、海外からの人工真皮の需要が増えています。

### 開発中 再生血管

先天的な疾患である心臓の「単心室症」の治療にも貢献。生体内吸収性高分子を基材とした、自己組織再生が行われる世界初の再生血管は、米国での製品化を目指し、ヒトでの臨床試験を推進しています。



再生血管

## 成長とともに育つ血管が幼い命を救い、 生きがいを生む



手術当時(3歳)

### ■ アンジェラちゃん事例

手術当時は3歳と遊びたい盛り。しかし、少し動くと息苦しくなってしまうため、室内でぬいぐるみと遊ぶことぐらいしかできませんでした。チアノーゼ(酸素不足で紫色の唇、手指の状態)が見られ、呼吸や心臓にも負担がかかるため、常に死の危険と隣り合わせ。ご家族の心労も並々ならぬものでした。

2011年8月にYale大学 新岡教授執刀のもと、再生血管によるフォンタン手術が行われ、無事に成功。その後はチアノーゼも見られなくなり、より活動的に暮らせています。現在、アンジェラちゃんは10歳になり、再生した血管も彼女の成長とともに大きくなっています。他の手術法では、人工血管が詰まらないように「ワーファリン」という血液をサラサラにする薬を飲む必要がありますが、常に出血の危険があるので活動の制限を受けます。アンジェラちゃんの場合は術後6ヵ月のみ服薬し、その後は中止できており、出血の心配もなく元気に動き回っています。

そんな彼女の目標は医師になること。再生血管により救われた彼女の命が、将来、さらに多くの人の命を救うことになるかも知れません。

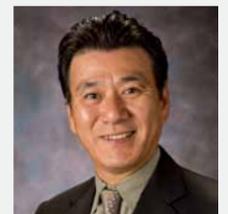


現在(10歳)

彼女の元気な姿はこちらでも  
動画で見ることができます  
New, Unique Surgery for Congenital Heart Disease: Angela's Story  
<https://www.youtube.com/watch?v=y2VaNNCK93s>

### MESSAGE

私がグンゼさんと開発してきた世界初の組織再生型人工血管は、単心室症の治療のみならず、特に小児では今後の長い寿命の間への影響があるため計り知れないQOLへの貢献があります。上記アンジェラさんをはじめ4名に使用し、みなさん元気に暮らしています。この製品は生死にかかわる重要な治療法に用いる重要な機器であるため幅広く利用されるまでにはしっかりとした検証が必要です。もうしばらく臨床研究を継続しますが、患者さんの笑顔を糧に頑張っていこうと思います。



米国オハイオ州立大学  
心臓外科教授 新岡 俊治 様



# QOLの向上への貢献

衣療(セルフケア)・未病(健康寿命延伸)への取り組みで健康で豊かなライフスタイルを創造しています。

1 QOLの向上への貢献  
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと  
環境問題対応

3 職場環境改善・  
働き方改革

4 より良いコミュニティ・  
社会づくり

## 医療現場の声から生まれた、 患者さま一人ひとりのセルフケアを サポートする低刺激製品の開発

QOL研究所では、乳がんなどの手術後やささまざまな皮膚トラブルなどで、肌が敏感になった方のセルフケアをサポートする低刺激製品「Medicure(メディキュア)」を展開。2017年9月より総合毛髪関連企業の株式会社アデランスと企業提携し、同社が運営する病院内ヘアサロン、医療機関での販売を開始しています。

### 敏感肌の悩みを軽減する 「完全無縫製®」インナー

安全で耐久性の高い接着技術で生地をつないだ、どこにも縫い目のない低刺激性インナー。「縫い目がすれて痛い」という、お肌が敏感な方の悩みを軽減しています。



### 付け外しにもこだわった 低刺激性ハーフトップ

肌への刺激が少ない設計と縫製を追求した低刺激性ハーフトップ。付け外しも簡単で、「創跡が痛む」「腕が上がりにくい」など、乳がん手術後の方のニーズに応えています。



### 敏感な頭皮を優しく包む 低刺激性デイリーキャップ

「頭皮にやさしいキャップが欲しい」という医療現場の声をもとに、やさしい素材や編み立て、縫い目にこだわって開発。抗がん剤治療中の方の悩みを軽減するアイテムです。



## 衣療

特定の悩みを軽減

手術後の痛み・肌の乾燥・  
むくみ対策・転倒予防 など

衣生活を向上するための  
アパレル技術を  
活用した製品の提供

## 未病

健康なライフスタイル

姿勢改善・腰痛予防・  
転倒予防 など

スポーツクラブを活用した  
健康寿命延伸のための  
新たなサービスの提供

## 自治体や医療機関などと連携しながら QOL向上を目的とした 新しいスタイルのクラブ運営

スポーツクラブ分野では、人々のQOLの向上に貢献する健康・医療関連分野を成長の核としています。全国に展開する総合スポーツクラブの知見とノウハウを最大限に生かし、健康寿命延伸のための「運動プログラム」を自治体と連携しながら進めています。

## 地域と連携した健康寿命延伸プログラムの開催

### 富山市との取り組み

富山市と総曲輪レガートスクエア※、グンゼスポーツが一体となり、富山市民の健康をサポートする健康寿命延伸のための「運動体感プログラム」を開催しました。健康志向の高まりを受け、今後も継続的な開催に向けた準備を進めています。

※総曲輪レガートスクエア…富山市中心部の旧総曲輪小学校の跡地にできた「医療・福祉・健康」をテーマとした官民連携の複合施設(2017年4月1日オープン)。自治体初の直営産後ケア施設も完備。



### 大阪府枚方市との取り組み

グンゼスポーツ枚方店では、市内在住の65歳以上の高齢者を対象に運動教室を開催しています。枚方市役所・地域包括支援センターと連携を図り、介護予防・生活支援サービス事業の取り組みの一環として今後も協力を続けていきます。



## 2018年度の計画

2018年秋、北大阪健康医療都市(健都)の複合商業施設「VIERRA 岸辺健都」の中にグンゼスポーツ吹田健都(仮称)を出店します。行政、周辺医療機関、テナントと連携しながらウォーキングイベントなどの運動指導、食事指導を通じて「健康・医療のまちづくり」に貢献します。

## MESSAGE

今後、日本の人口動態における後期高齢者の急速な増加、生活習慣病患者、および予備軍の増加に伴い、公的医療保険制度も大幅な転換期を迎えざるを得ない状況です。国、地方自治体とともに健康寿命延伸プロジェクトの推進を進めており、行政、医療機関、健康を切り口とした民間企業が協働で新たな取り組みを模索しています。グンゼスポーツも各機関との連携を深め、運動の習慣化、生活の一部として楽しく参加できる健康増進プログラムなど、持続可能なフィットネスクラブを提供することで人々のQOL向上、社会、地域に貢献してまいります。



グンゼスポーツ株式会社  
代表取締役社長 廣江 将利

## MESSAGE

当社では2002年9月から、患者さまのQOL向上を目的に、病院内に理美容室を展開しております。病院での療養中の患者さまの中には、治療の副作用による外見の変化に悩まれる方やトラブルをかかえる方が多くいらっしゃいます。そのような患者さまへ昨年より、当社の病院内理美容室(一部店舗のみ)を通じて、メディキュアシリーズを直接手に取り、品質の良さを実感いただくことで、患者さまのQOL向上の貢献を目指しております。今後も、当社が掲げる「毛髪・美容・健康のウェルネス産業を通じて、笑顔と心豊かな暮らしに貢献する」とグンゼ様の掲げる「優良品の提供により社会へ貢献する」をもとに企業連携をさらに強固にすることで、患者さまのさらなるQOL向上を目指してまいります。



株式会社アデランス 医療事業推進部  
サブマネージャー 内村 慎司 様

# 緑豊かな環境づくりと環境問題対応

地球環境に配慮した製品・サービスの提供を通じて、地球との共生に努めています。

1 QOLの向上への貢献  
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと  
環境問題対応

3 職場環境改善・  
働き方改革

4 より良いコミュニティ・  
社会づくり

## 包装用フィルムの「薄膜化(減量化)」と「材質の転換」で環境に配慮

プラスチックフィルム分野では、飲料用ボトル、食料品、トイレタリー用品など、生活必需品の各種包装用フィルムを製造・販売しています。プラスチック包装材料は中身の保護や表示用ラベルに使われ、製品になくはならないものですが、最終的にはゴミとなり、少なからず環境に影響を与えます。グンゼでは、独自の差異化技術によりフィルムを「薄く(減量化)」「環境にやさしい材質」にすることで、環境負荷軽減につなげています。その動きは国内に留まらず、グローバルに展開しています。



### シュリンクラベルの 薄膜化(減量化)を実現

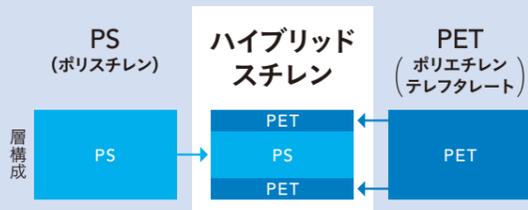
グンゼ独自の異種多層化技術によりPS(ポリスチレン)素材とPET(ポリエチレンテレフタレート)素材を積層した「ハイブリッドスチレンフィルム」は、PS素材の収縮性能とPET素材の剛性を両立。ラベルのデザイン性を維持・向上させながら、従来フィルムから約20%の減量を実現しました。

2017年度当社シュリンクフィルムは国内市場の約3分の1を占めており、ハイブリッドスチレンの当社内ウエイトは過半数まで伸長しています。さらなるシェア拡大に取り組み、環境負荷低減に貢献します。

### グローバル規模で 環境にやさしい材質の拡大

海外、特に東南アジア地区ではまだまだ塩ビ素材のシュリンクフィルムが主流です。グンゼは海外向け製品においてもハイブリッドスチレンのシェア拡大を推進しています。グローバル規模で、より安全な素材である非塩ビフィルム化を進めていきます。

### ハイブリッドスチレンフィルムの特長



収縮性能 + 剛性を両立

薄膜化により  
約20%減量

※当社従来フィルムと比較。

## 揮発性有機化合物を99%除去

中国では、企業に向けた新たな環境規制の導入と既存の環境規制の見直しが続いています。グンゼは現地工場(上海郡是通虹織維有限公司、上海郡是新包装有限公司)にVOC処理装置を導入。工場から排出される揮発性有機化合物(VOC)を回収・精製、または燃焼処理をすることで環境負荷軽減に貢献しています。自動車のエアバッグにも使用される、耐磨耗性に優れたボンディング加工を施したナイロン糸から発生する揮発性有機化合物や、印刷工程およびラミ工程で発生する揮発溶剤(インキや接着剤に含まれる)を濃縮燃焼処理するなど、2018年は99%の除去に取り組んでいます。



VOC処理装置(上海郡是通虹織維有限公司)

## 豊かな環境を未来世代へ残していくために

国土の緑化に貢献する事業活動において、豊かな環境を未来世代に受け継いでいくための一翼を担っています。樹木は地球温暖化を防止する機能を持ちます。樹木が行う光合成は水と大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し炭水化物を合成、大気中に酸素を供給します。従って樹木を多く販売すればするほどCO<sub>2</sub>を削減することにつながります。2017年度のCO<sub>2</sub>固定量※は817トン(樹木重量の約半分が炭素)で、2020年には123%(2017年度比)の固定量を目標にしています。

※樹木がCO<sub>2</sub>を炭素として一年間に取り込む量。



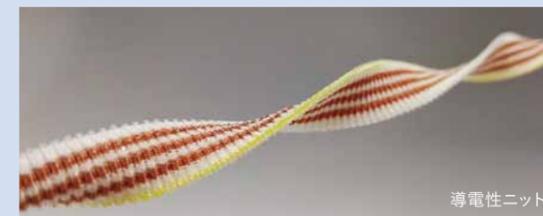
都内複合ビルの樹木納入事例

## 冷感素材と冷却システムによる家畜への暑熱対策

京都府農林水産技術センター畜産センターと共同で開発した「ウシブル®」は、熱伝導性の高いグンゼオリジナル冷感素材「ラディクール®」に適量の水を含ませ、その気化熱を利用して牛体を冷やす冷却システムです。開発の背景には、酪農・畜産業界(乳製品)でも深刻化している地球温暖化があります。暑さに弱い家畜は、従来の暑さ対策(送風・日除け・散水・ミスト)だけでは生産性維持が難しく、さらなる暑熱対策が大きな課題となっています。業界の期待を集める「ウシブル®」の製品化に向け、現在、全国の酪農・畜産家による実証・評価を進めています。



### 「ウシブル®」の特長



ラディクール®の高い吸熱・放熱性と熱伝導性が水分を効率よく気化し、冷感性を持続。

牛に合わせた商品設計とストレッチ性によるスムーズな着脱。

伸縮性の高い導電性ニット線材に組み込んだセンサーで生地への濡れを検知し、注水量を制御。衛生的かつ効率的な冷却が可能。

### MESSAGE

乳牛は暑さに弱く、夏になると食欲減退し、乳量も減少します。酪農家では送風機などで暑さ対策を行っていますが、京都府内では、猛暑だった平成22年には例年の約2倍の乳牛が亡くなりました。解決策に悩んでいた時に人用の冷感素材を目にし、牛にも使えるのではと思い、すぐにグンゼさんに相談したところラディクール®を提案していただき、共同で家畜用の衣料開発を行うことになりました。グンゼさんは足繁く牛舎に通われ、試行錯誤の末、ウシブル®が誕生しました。酪農家にも着用してもらい、老齢牛が夏を越せたことと喜ばれた姿が忘れられません。今後も現場の声を大事に、酪農家と牛に喜ばれる取り組みを続けていきたいです。



京都府農林水産技術センター 畜産センター 研究・支援部 酪農担当 技師 岩崎 方子 様

# 職場環境改善・働き方改革

一人ひとりの意識改革と業務改革を推進し、グンゼの企業価値向上を図っていきます。

1 QOLの向上への貢献  
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと  
環境問題対応

3 職場環境改善・  
働き方改革

4 より良いコミュニティ・  
社会づくり

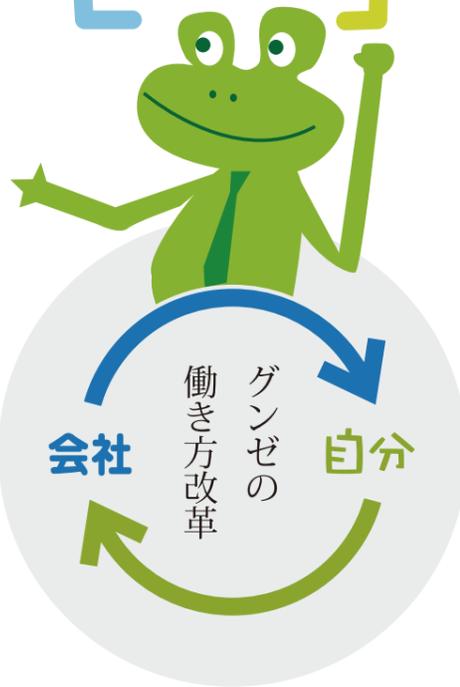
## 「グンゼの働き方改革とは?—「カエル活動」4つの視点—

### 1 実質を重んじる環境へ

始業・終業式の廃止や一斉朝礼の見直しなど形式的な礼式の改廃を行い、「実をとる」働き方に変えていくことをトップメッセージとして伝えます。

会社をカエル

自分もカエル



### 2 効率的に結果を出す環境へ

労働時間が長くなる原因を追究した結果、特に会議の効率化、仕事の属人化に焦点を絞って業務改革を推進します。

### 3 いつでも、どこでも働きやすい環境へ

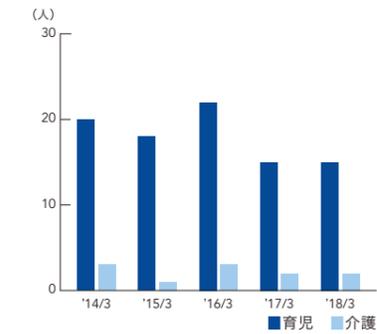
24時間制約なく働ける人だけでなく、さまざまな事情・属性・考え方を発揮して働けることをねらいとして、在宅勤務やフレックス、リモートワークの推進、時間単位年休、カムバック制度(再入社制度)などを導入し、柔軟性のある働き方へと改革します。

### 4 快適に自分が育つ環境へ

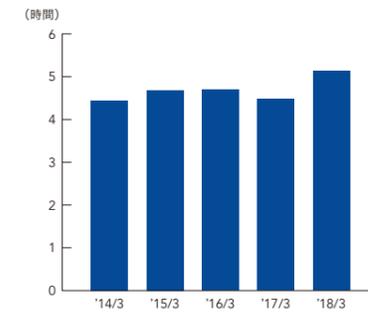
学びあう組織風土の醸成を目指して、自己啓発制度を見直し、チャレンジする人を応援する仕組みにします。具体的には、通信教育、資格取得・語学奨励制度を充実させ、また“学びの場”を創設します。

## 2017年度データ※

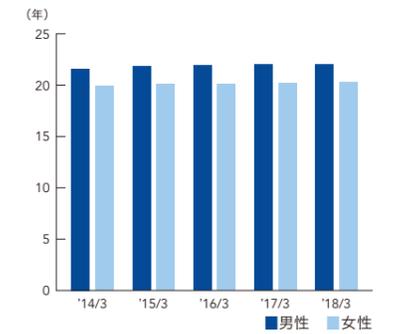
### 育児・介護休職取得者数



### 時間外・休日労働平均時間



### 平均勤続年数



※グンゼ単体

## 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

●あるべき姿:個人のチカラを十分に発揮し、きらきら輝ける働きがいのある男女フェアな会社。

1. 計画期間:2016年4月1日~2018年3月31日(2年間)
2. 計画内容(抜粋)



グンゼは、2015年1月15日から、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証企業に認定されています。

| 施策およびその目的                      | 指標   | 2015年度            | 2016年度            | 2017年度            |
|--------------------------------|--|-------------------|-------------------|-------------------|
|                                |  | (2013-2015年度平均)   | (2014-2016年度平均)   | (2015-2017年度平均)   |
| 女性活躍推進状況の訴求                    | 総合職に占める女性比率<br>在籍者<br>新卒・キャリア採用(3年平均)              | 7%<br>21%         | 8%<br>28%         | 9%<br>25%         |
| 一般職の人的ネットワーク構築による定着支援とキャリア開発支援 | 一般職女性のコース転換Aの応募者数                                  | 6人                | 4人                | 2人                |
| 育児・介護時などの居住地起因による退職防止策の検討      | 採用10年前後の新卒採用者の継続雇用割合(女性総合職)                        | 38%<br>(参考 男性68%) | 42%<br>(参考 男性60%) | 48%<br>(参考 男性60%) |
| 育児休職者への管理職によるサポート面談            | 管理職に占める女性管理職比率                                     | 1.8%<br>(7人)      | 1.8%<br>(7人)      | 1.5%<br>(6人)      |
| 柔軟な勤務体制の試行(在宅勤務・時差出勤など)        | 従業員満足度調査による「人や組織をマネジメントする業務(管理職)に就きたい」と考える女性総合職の割合 | 25%<br>(参考 男性39%) | 27%<br>(参考 男性39%) | —                 |
| 管理職の理解促進                       | 従業員満足度調査による「この会社では女性が活躍している会社だ」と思う割合               | 29%               | 30%               | —                 |
| 女性活躍推進状況の把握                    |  |                   |                   |                   |
| 女性活躍推進状況の見える化と理解促進             |  |                   |                   |                   |

## 「Well-Being OSAKA Lab」プロジェクトに参画

大阪府と企業・大学が連携し、働き方改革や健康経営などに関する課題・情報を共有し、健康に関するさまざまな課題解決を図るために発足した「Well-Being OSAKA Lab」プロジェクトに参画。2018年3月28日にはグランフロント大阪「ナレッジシアター」で開催された「Well-Being OSAKA Lab」のキックオフイベントに参加しました。

少子高齢化、人口減少社会、高度IT化時代を迎え、多様な人材の活用、健康経営の推進、生産性向上が経営の重要なテーマになっています。成熟化した社会において、企業の成長、生産性の向上を実現するためには、従業員一人ひとりがイキイキと元気に働ける環境が求められています。健康意識の機運醸成を図るため、グンゼはこのプロジェクトに参画し、健康経営への取り組みを進めていきます。



「Well-Being OSAKA Lab」キックオフイベント

## MESSAGE

働き方改革というと、「残業時間の削減」にフォーカスされがちですが、目的は、「すべての従業員が能力を発揮できる、競争力の高い会社をつくる」ことです。労働時間の短縮化や各種制度の整備などはあくまでも手段であり、最終目的ではありません。

2017年度は当社の「働き方改革元年」であり、4つの視点に基づき、制度や仕組みの整備を行いました。しかし、これらを上手に活用し、ワークライフバランスと生産性の向上をともに実現できる、競争力の高い会社になれるかどうかは、従業員一人ひとりが自分ごととらえ、変わっていかれるかどうかにかかっています。2018年度からは、あらためてカエル活動の趣旨を従業員に丁寧に説明し、より実のある活動にしていきたいと思います。



人事総務部 人材開発室 丸田 麗子

# より良いコミュニティ・社会づくり

さまざまな事業を通じて地域の活性化に向けた取り組みを進めています。

1 QOLの向上への貢献  
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと  
環境問題対応

3 職場環境改善・  
働き方改革

4 より良いコミュニティ・  
社会づくり

## 大阪府民の皆さまの「健康」と「安心」を支える —大阪府と包括連携協定を締結—

大阪府民の皆さまの「健康」と「安心」を支えるため、健康・医療、スポーツ振興、地域活性化、子ども、環境、防災の6分野にわたる連携協定と協働に関する包括連携協定を2017年9月に大阪府と締結しました。「乳がん検診キャンペーン」「健康イベント」「緑化事業」などの事業を通して、地域の活性化に向けた取り組みを進めています。



締結式の様子

### 主な取り組み内容

◎新規 ○継続

| 連携分野     | 主な連携事例  |
|----------|---|
| ① 健康・医療  | ◎グンゼ直営店舗における「がんに関する啓発キャンペーン」の実施<br>◎商品とタイアップしたがん啓発運動への協力<br>○大阪国際がんセンターとの連携<br>○大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォームにおける取り組みの推進 |
| ② スポーツ振興 | ◎市町村と連携したスポーツ活動の促進  |
| ③ 地域活性化  | ◎2025年国際博覧会の誘致に向けた機運醸成  |
| ④ 子ども    | ○大阪府が進める「放課後子ども教室」への参画  |
| ⑤ 環境     | ◎緑化事業への協力   |
| ⑥ 防災     | ◎被災時の物品支援に関する協力 ◎大阪880万人訓練への協力  |

### MESSAGE

大阪府では、平成27年4月に都道府県で初の企業・大学とのワンストップ窓口「公民戦略連携デスク」を設置し、この間、企業や大学の皆さまと社会課題の解決に向けた取り組みを進めてまいりました。グンゼ様には、がん検診に関する啓発、子どもの支援、2025年国際博覧会(万博)の誘致など、多岐にわたり連携・ご協力いただき、改めて感謝申し上げます。  
平成30年度は万博誘致の勝負の年です。公民連携にあたって、万博誘致の機運醸成はもとより、子どもの貧困への対策などSDGs達成に向けた取り組みを、より一層推進してまいりたいと考えていますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。



大阪府知事 松井 一郎 様

## 災害支援をワンストップで提供 —緊急災害対応アライアンス「SEMA」を設立—

災害支援を実施している民間企業とNPO団体とともに、緊急災害対応アライアンス「SEMA(シーマ)」を設立しました。民間企業とNPOの連携により、日本国内での大規模自然災害発生時に企業が持つ物資・サービスなどの支援をワンストップで提供。自然災害が日本社会や被災者に与えるインパクトを最小限に食い止め、早期復興に向けた支援を行います。平時に加盟企業・団体が持つ物資・サービスなどをリスト化し、災害発生時には、リストをもとに各社が行う支援を迅速に被災地に届けます。また、公共機関と連携し支援の漏れや無駄を減らし、被災自治体の負担を軽減することを目指します。



設立時の「SEMA」参画企業メンバー

### 包括連携 活動実績

#### 健康・医療 「だから行こう!乳がん検診」イベント開催

2017年10月1日、乳がん検診の受診率向上を目的とした取り組みとして、乳がん検診促進キャンペーン「だから行こう!乳がん検診」を、なんばウォーク「フォレストパーク」で開催しました。イベントでは、セルフチェック診断のチラシ配布や乳がん触診モデルによる「しこり」の感触体験などを実施。早期発見の重要性と検診の必要性をアピール、正しく理解してもらうことで、乳がん検診の受診を促進しました。



#### 地域活性化 「EXPO 2025」万博誘致を応援

グンゼは、2025年に開催される国際博覧会(万博)の日本・大阪への誘致に向けて発足した「2025日本万国博覧会誘致委員会」のオフィシャルパートナーです。グンゼグループの従業員に向けてPR活動を行うほか、グンゼが有する全国の情報発信ネットワークを活用して、日本(大阪)開催実現に向けた誘致活動を応援しています。



#### 子ども 「楽しみながら学ぶ」グンゼの肌着教室を開催

関西エリアを中心に講師を派遣し、「肌着の役割と汗の働き」がテーマの出前授業「グンゼの肌着教室」を行っています。実験やクイズを交えて肌着を着ることの大切さを伝え、肌着を着る習慣を身に付けてもらうことで、衛生的で健康的な体づくりをサポートしています。2017年度は小学校の児童クラブや中学校など9校を訪問。約300人の子どもたちが受講しました。



#### 子ども 一時保護所へ子ども肌着を提供

2017年12月23日、大阪府からの支援要請に基づき、児童虐待などにより保護された児童が入所している一時保護所(大阪府)へ、子ども肌着(男児シャツ・パンツ、女児シャツ・ショーツ)240枚を提供しました。

#### 環境 「共生の森 植樹祭」を支援

2018年3月3日、大阪府が主催する「共生の森づくり」の活動の一環として、「第15回 共生の森 植樹祭」が開催されました。大阪府民(一般参加者)と大阪府下の企業23社から約500名が参加し、3,600㎡のスペースに約1,700本の苗木を植樹しました。この植樹祭に、「グンゼクラブ」の寄付金と会社のマッチング基金により、グンゼグリーンから265本の苗木を提供。グンゼグループから12名が参加しました。



# より良いコミュニティ・社会づくり

創業の地、京都・綾部の活性化に向けた活動で、住みやすい地域づくりに貢献しています。

1 QOLの向上への貢献  
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと  
環境問題対応

3 職場環境改善・  
働き方改革

4 より良いコミュニティ・  
社会づくり

## 「ものづくりの拠点として綾部に設立く北部産業創造センター」

京都府、綾部市、京都工芸繊維大学の共同運営による産学公連携拠点「北部産業創造センター」が2018年4月2日に開所しました。人材の交流から育成、事業化、競争力強化に至る一連の「場」を提供し、府北部のものづくり企業の成長発展、次代を担う新産業の創出などを目指します。グンゼは、綾部本社の延べ1,780㎡の敷地を提供(賃貸)し、今後も地域の産業振興に貢献していきます。



### ビジネス交流の「場」の提供

域内外の企業、大学、起業家その他イノベーションを起こす多様な人々の交流から、新産業の芽を創出

### 産業人材の育成

基礎的な工学知識から高度な研究、設計技術、品質管理手法なども習得でき、開発プロジェクトを導くことができる産業人材を育成



### 事業化の促進

大学研究の知見、公設試験研究機関のノウハウをワンストップで提供し、「その場」での本格的なR&D、迅速な試作・実証を支援

### ものづくりの競争力創出

開発のスピードアップ、技術・生産性・品質などの向上を支援

## 地域の活性化に向けた活動

2018年2月に、創業者 波多野鶴吉の没後100年、生誕160年を記念し、さまざまなイベントを開催しました。これからも綾部市民の皆さまとともに、地域の活性化に向けて活動を続けます。



### グンゼ社員と綾部市民による寸劇「波多野鶴吉物語」

2月17日、綾部市民とグンゼ社員が演じる寸劇「波多野鶴吉物語」を、グンゼ記念館で上演しました。出演したのは事前募集に手を挙げた市民の方々とグンゼ社員。出演者、スタッフ計28名が1日2時間、計6回の稽古を重ね、本番に臨みました。上演当日は160名が来場し、立ち見が出るほどの盛況でした。寸劇の様子は「あやべグンゼスクエア」内でのビデオ上映をはじめ、綾部市観光協会でも公開しています。



### 波多野鶴吉ゆかりの地めぐり

2月25日、綾部市内の波多野鶴吉ゆかりの地をめぐりイベントを開催。綾部市民、グンゼ社員、OBなど多くの方が参加しました。



### 「つるとはな」紙芝居を上演

2月22日～24日、グンゼ博物苑で「つるとはなー波多野鶴吉物語ー」の紙芝居を1日2回上演しました。創業者の社宅を移築した「道光庵」での紙芝居は雰囲気たっぷりでした。



### 郡是展を開催

2月19日～26日、グンゼ博物苑で「郡是展」を開催。社章の由来が記録された資料や、妻・はなの自筆の手紙、鶴吉の愛用した食器や常備薬などを展示しました。

### MESSAGE

古くから綾(織物)の部(民)として栄えた綾部市は、市域を流れる由良川河畔に桑畑が広がり、かつては養蚕が盛んで「蚕都」と呼ばれ、郡是製絲株式会社を中心に繊維工業で発展したモノづくりのまちです。今春にはグンゼ(株)のご尽力で、産学公が連携した北部産業創造センターが綾部駅北側に開館し、駅周辺にさまざまな機能を集積しています。また、2020年大河ドラマは綾部ゆかりの明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」に決定しました。これを機にグンゼ(株)創業者の波多野鶴吉と妻はなの物語の「NHK朝の連続テレビ小説」ドラマ化へ向けた取り組みに弾みをつけたいと思います。鶴吉の社員教育や会社経営は、人づくりや社会づくりの基本理念であり、それは今も市民にも受け継がれています。その理念を心に留め、至誠一貫、創意工夫をもって、この素晴らしいふるさとを次の世代に繋ぐために「住み続けられる」まちの実現に向け取り組んでいます。



綾部市長 山崎 善也 様



### 綾部バラ園

あやべグンゼスクエア※内にある綾部バラ園は2010年10月に開園。120種類、1,200本のバラが市民ボランティアによって管理、整備されており、開園から毎年バラが見頃となる春と秋には多くの方が訪れます。来場者数は年々増加傾向にあり、2017年の「春のバラまつり」では52,000人を超えました。

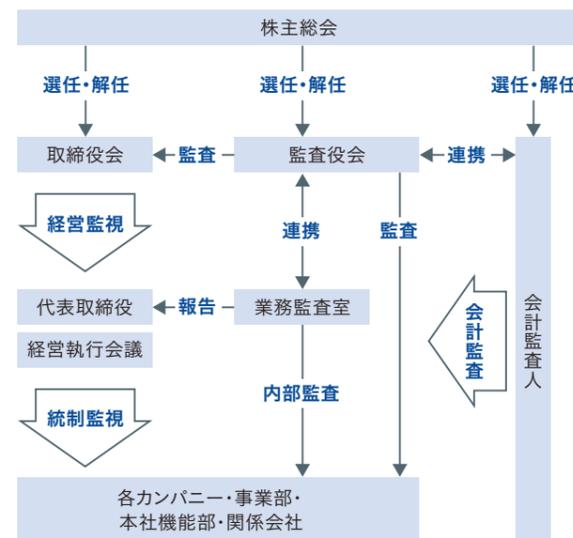
※グンゼ博物苑(展示蔵・集蔵・今昔蔵・道光庵)とあやべ特産館、綾部バラ園の3つの施設で構成しています。

## コーポレートガバナンス

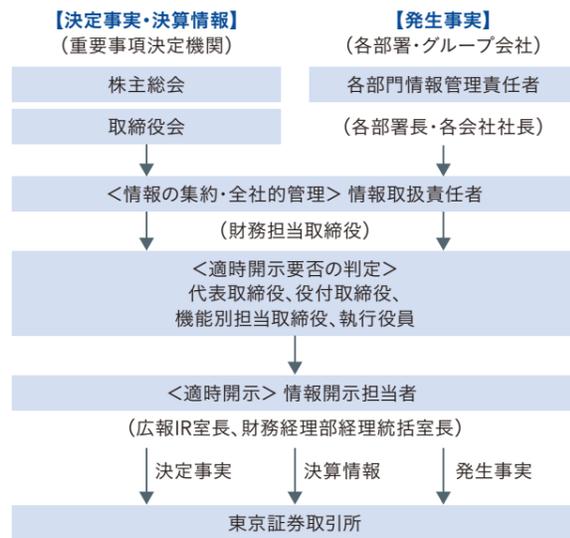
### 基本的な考え方

グンゼグループは、企業価値を継続的に増大させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時適切な情報開示に努めています。経営の透明性向上を図ることによって株主価値を高めることを経営上の最も重要な課題の一つであると考え、その実現のために、各ステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、内部統制機能の強化・整備を図りながら、コーポレートガバナンスの充実に努めていきたいと考えています。

### コーポレートガバナンス体制



### 適時開示体制



### 経営執行体制

当社は監査役会設置会社です。現行の経営体制は、社外取締役2名を含む取締役11名（うち女性2名）です。また、迅速な意思決定および業務執行体制の強化を図るために執行役員制度を導入しており、取締役兼務者9名を含む執行役員15名を選任しています。なお、経営責任の明確化を図るとともに経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制とするため取締役および執行役員の任期は1年としています。取締役会は原則として月1回開催しており、業務執行に関する重要事項や法令、定款に定められた事項の決定を行うとともに、取締役の職務執行状態を監督しています。これと併せて、代表取締役、役付取締役、機能別担当取締役、執行役員8名で構成される経営執行会議を概ね週1回程度開催し、業務執行に関する重要事項の審議を行い、意思決定の迅速化を図っています。

(2018年7月現在)

#### 社外取締役

2名の社外取締役は社外の専門的な知識・経験と公正かつ客観的な立場から、取締役会において助言・提言を行うとともに、経営トップおよび取締役などと経営に関する意見交換を実施するなど、当社のコーポレートガバナンスが有効に機能することに寄与しています。

#### 監査役・監査役会

監査役会は社外監査役2名を含む監査役4名で構成しています。監査役は取締役会、経営執行会議などの重要会議への出席、当社事業部門・管理部門への監査、国内外の子会社調査などを実施し、経営への監視機能を果たしています。

#### 会社情報の適時開示に係る社内体制

当社は企業価値を継続的に向上させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時適切な情報開示を通して、経営の健全性・透明性の向上を図っています。

## 内部統制システム

### リスク管理体制の強化

2017年度のリスクマネジメント活動は、同年に新設した法務コンプライアンス室が一元的にリスク管理を行うこととし、体制を強化しました。事後対策から予防策へ重点をシフトし、さらに、より機動的な共有体制を目指し、リスク発生時には規定の書面により法務コンプライアンス室に速やかな報告を義務付けるとともに、改善策協議の必要性が高い場合は委員が集まって協議するリスクマネジメント委員会を開催しています。委員会で取り上げた事例については、CSR委員会、部門CSR責任者会議、CSR推進リーダー会議で共有し、各部門でのリスクマネジメントにつなげています。また全社共通の課題である働き方改革、B2C事業における適正表示および個人情報保護を取り上げ協議。働き方改革については分科会の提言を受けて人事総務部で種々の制度改革を行い、適正表示については法務コンプライアンス室が事業部を横断した研修会を開催し、個人情報保護については改正法を反映した規程改定を行いました。

#### リスクマネジメント委員会報告案件

(年間件数)

| 内容       | 2016年度 | 2017年度 |
|----------|--------|--------|
| 海外リスク    | 0      | 1      |
| 火災       | 3      | 0      |
| 情報セキュリティ | 3      | 0      |
| 施設事故     | 0      | 0      |
| 表示不適切    | 0      | 3      |
| 環境       | 1      | 0      |
| 自然災害     | 2      | 0      |
| 重大労災     | 8      | 8      |
| 個人情報取扱不備 | 0      | 0      |
| 人権問題     | 0      | 0      |
| その他      | 1      | 0      |
| 計        | 18     | 12     |

2017年度版CSR報告書掲載データに一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

### 相談・通報への対応

社長直轄の内部通報窓口として、「なんでも相談ホットライン」を設置しています。相談や通報に対しては、ハラスメント防止規程、公益通報者等保護規程に則り、被通報者および関係者のプライバシーに配慮した上で、慎重に対応しています。相談件数は、前年と比較すると減少しましたが、ハラスメント関係の相談が増加しました。公益通報者等保護規程に基づく相談件数の実績はありません。今後も、公正・公平な立場で誠実な対応に努めていきます。

#### なんでも相談ホットラインに寄せられた通報・相談内容

(年間件数)

| 相談項目          | 2016年度 | 2017年度 |
|---------------|--------|--------|
| 職場の人間関係       | 18     | 9      |
| セクシュアル・ハラスメント | 0      | 2      |
| パワー・ハラスメント    | 0      | 6      |
| その他           | 25     | 7      |
| 計             | 43     | 24     |

#### MESSAGE

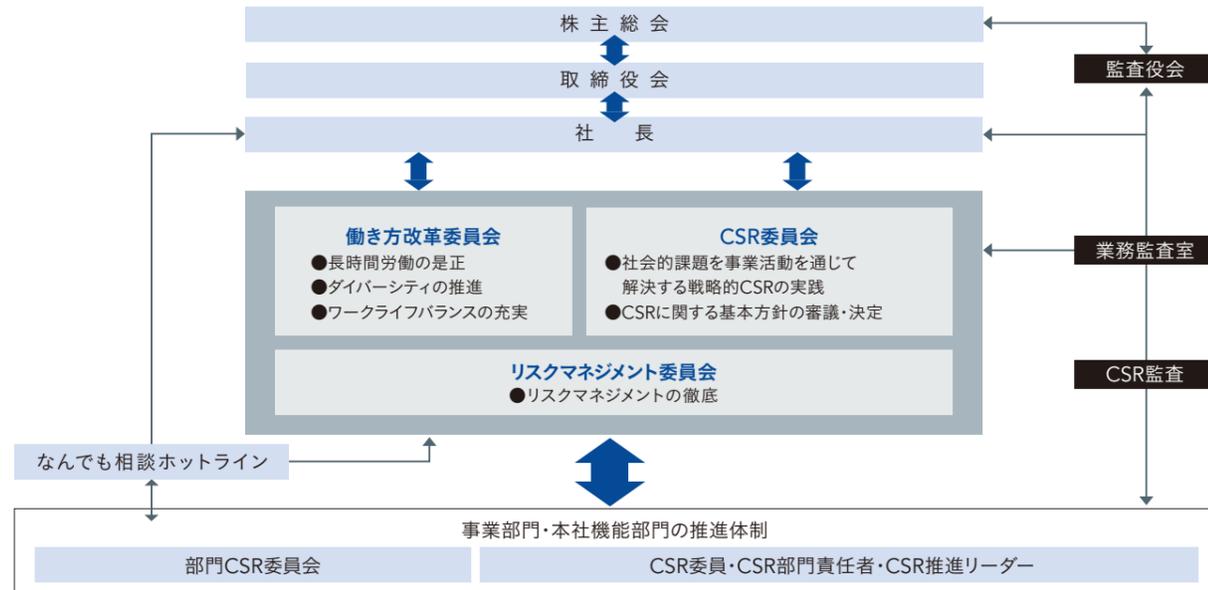
2000年代半ば、コーポレートガバナンス(企業統治)、コンプライアンス経営の議論が巻き起こり、企業統治の仕組みが強化されました。当社でも、企業価値を継続的に増大させることを目的に、当社グループの内部統制システムの整備に関する基本方針が決定され、その監査の実施基準が規定されました。また会社経営の透明性の確保などのため、株主の権利・平等性の確保など五つの基本原則に沿ったコーポレートガバナンス・ガイドラインが制定されています。監査役は、そのガバナンスのための会社の体制や統治の方針・運用について、取締役会、その他の重要な会議や往査などを通じてガバナンスの実効性を監査しています。今後も公正不偏の立場でガバナンスの健全性向上に努めてまいります。



監査役 水沼 洋

## CSR推進体制

当社は、「CSR委員会」「働き方改革委員会」「リスクマネジメント委員会」の3つの委員会を設置し、これらの委員会が有機的に連動することにより社会から信頼される企業としてのガバナンス体制を徹底しています。CSR委員会では、CSR担当役員を委員長、CSR委員をメンバーとし、解決すべき社会的課題について自事業活動を通じて持続可能な社会の実現および企業価値向上を目指すため、またCSR委員会で戦略的CSRを実践する上での基本方針の審議・決定、ならびに推進事項および課題への対策を審議します。さらに、CSR委員会の決定事項の徹底や、各部門における次年度展開を計画・実践する組織として「部門CSR委員会」を設置。同委員会での実践状況は、CSR委員会で報告され、活動内容を全社レベルで把握することにより組織的なCSRマネジメントを推進します。



## CSR活動を活性化するために -CSR活動優良事業所表彰-

当社グループでは各事業所に部門CSR推進委員会を設置、CSR活動を推進しています。毎年、各部門の活動を表彰することにより、部門の活動を称えらるとともにCSR推進リーダー会議などで共有し、CSR活動の活性化につなげています。1位受賞の部門は、ATGプロジェクト※をはじめとする構成員の一体感を醸成する取り組みや、社会貢献のめったない活動などのあらゆる分野において幅広く精力的な活動を推進したことで表彰されました。以下は表彰を受けた部門です。

※ATGプロジェクト…ATG(明るく楽しく元気よく)は、職場の風通しを良くするための課題に取り組む全社プロジェクトとして2013年にスタートしました。

### 工場部門 部門別順位

- 1位** **メディカル事業部** … 88点
- 2位 東北グンゼ … 77点
- 3位 綾部エンプラ … 71点

#### メディカル事業部/住みやすい地域づくりに貢献

綾部本社周辺の歩道や駐車場付近の清掃を全従業員で実施しています。約30分間の僅かな時間での清掃活動ですが見違えるほどきれいになり、綾部を訪れる方々を清々しい気持ちで迎えることができます。



### オフィス・サービス部門 部門別順位

- 1位** **綾部本社** … 92点
- 2位 宇都宮物流 … 78点
- 3位 山梨物流 … 77点

#### 綾部本社/継続的な復興支援

福島震災復興支援のために毎年、福島ひまわり里親プロジェクト※に参加し、グンゼ博物苑の花壇でひまわりを育て、たくさんの種を収穫しています。今後もたくさん花を咲かせ、支援を続けます。

※東日本大震災後、「福島県に震災復興支援としてひまわりを植えよう」と始まった活動。購入した種は、里親のもとで大切に育てられ、採取した種を福島に送り返すことで福島との絆づくりと雇用支援につながっている。



〈表彰は100点満点(事業所活動55点、社会貢献活動25点、コンプライアンス関連20点からの減点方式)の評価基準となっています〉

# Link to the future

## これからのグンゼ、価値創造ストーリー

グンゼグループは、  
4つの社会課題に取り組み、  
お客さまとともに緑豊かな  
笑顔あふれる地域社会の中で、  
人々が明るく、楽しく、元気よく、  
いきいきと健康に過ごせる  
未来を目指します。

グンゼは生糸事業で創業した後、レグウエア、インナーウェアに事業転換、やがて繊維事業で培った技術を礎に、プラスチックフィルムなどの分野に進出しました。さらには医療用の生体吸収性縫合糸の実用化に日本で初めて成功するなど、独自の技術をさまざまな分野に生かして、時代に先駆けた新しい価値を創造してきました。

今日、私たちを取り巻く環境は大きく変わりつつあり、地球温暖化や自然破壊の進展、少子高齢化、生活習慣病などの健康問題、人と人とのつながりの希薄化、経済格差が進み、環境や健康などに関する社会課題が深刻さを増してきています。

私たちは、こうした社会課題の解決に主体的に取り組むことで、会社をめぐるすべての人々のクオリティ オブ ライフ(QOL)の向上に貢献したいと考えています。これまでに培ってきたグループの強みを生かして社会問題に取り組むことが、発想の転換や創意工夫を促し、イノベーションを生み出します。そうすることでグンゼの組織能力が向上し、お客さまにとっての価値を持続的に創造し、提供することができるのです。

グンゼグループは、2020年度までの中期経営計画「CAN 20」ならびにそれに続く取り組みの中で、グンゼにしかできない“こちよさ”をお客さまに提供するために4つの社会課題に取り組みます。緑豊かな笑顔あふれる地域社会の中で、こちよき生活を実現し、人々がいきいきと健康に過ごせる未来を目指します。

### グンゼグループのマテリアリティ(CSR重要課題)

- 3** すべての人に健康と福祉を  
QOLの向上への貢献(健康・福祉への貢献)  
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- 9** 産業と技術革新の基盤をつくろう  
緑豊かな環境づくりと環境問題対応  
強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る。
- 8** 働きがいも経済成長も  
職場環境改善・働き方改革  
完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。
- 11** 住み続けられるまちづくりを  
より良いコミュニティ・社会づくり  
包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する。



関西大学 社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授・博士(法学)  
日本経営倫理学会 常任理事  
経営倫理実践研究センター 上席研究員  
高野 一彦 様

私は2012～14年の間、グンゼグループCSR報告書の第三者意見を執筆させて頂いた。当時のCSR報告書は、グンゼグループのCSR活動が包括的に記載されていたが、その中でも「働きやすい職場づくり」、「お客さまに信頼される事業活動」に関する記載が充実していることに特徴があり、人を大事にする社風がよくわかる内容であった。たとえば、「女性きらきらプロジェクト」「明るく楽しく元気よく(ATG)プロジェクト」「職場の元気力向上プロジェクト」などの社長直轄のプロジェクトの活動や、「お客さまの声」共有システムで、商品の改良を継続的に行っている様子などはその好例であろう。当時のCSR報告書は、多くのステークホルダーの中でも特に従業員とお客さまを読み手の中心に据えていたように思う。従業員の働くモチベーションの向上を図り、お客さまの信頼を得ることで、企業として発展していくという意味が伝わる内容であり、私はグンゼグループのCSR経営にとっても好感を持った。その一方で、CSR報告書のなかに投資家に対する情報提供の機能を付加することも、将来的な課題として検討してはどうかという旨を、第三者意見で提言をさせて頂いた。

3年の期間を置いて、2018年度の第三者意見を執筆する機会を頂き、レポートの内容が大きく変わっていることに驚いた。まず名称が「グンゼ統合レポート」に変わっている。国際統合報告評議会(IIRC)のフレームワークを基に「統合報告」の形式を採用するとともに、サステナビリティ報告書の国際的なガイドラインである「GRIガイドライン 第4版」に基づき、グンゼグループにとって重要な分野(マテリアリティ)を特定した上で、PDCAマネジメントにより推進・改善を図っている。さらにこれらのCSR活動が、「持続可能な開発目標(SDGs)」の各項目にどのように対応しているのかを示している。これらは、投資家に対する情報提供を目指した改善であろう。

その一方、お客さまを大切にする社風は変わっていない。たとえば、アレルギーや敏感肌に悩むお客さまの声をもとにした低刺激性インナーの開発、アンジェラちゃんの施術の事例で紹介された再生血管の開発などである。「現場の声」を分析し、商品やサービスの改善に真摯に取り組んでいる点は、創業から120年以上もの長期にわたり、お客さまから信頼を獲得し続けているグンゼの競争優位性の源泉であろう。このように、グンゼ統合レポート2018を拝読すると、従前のCSR報告書の素晴らしいところを保持しつつ、投資家の投資判断に資する情報提供の機能を付加しており、一段とレベルアップした様子がよくわかる。

今後は、さらに記載内容を充実されると、より素晴らしい統合報告になっていくのではないだろうか。たとえば、長期経営戦略と価値創造ストーリー、リスクと見通しなどの記載がさらに充実すれば、より投資家の投資判断に資するような報告書に昇華すると思う。また、従前から真摯に取り組んでこられた活動について、今後も積極的に紹介をされることを願いたい。お客さまの「よろこび」を追求し続ける経営姿勢はグンゼグループの特徴だと思う。3年の期間を置いて拝見したグンゼ統合レポート2018は、企業としての発展を予感させる素晴らしいレポートに仕上がっているのではないだろうか。

■ 第三者意見を受けて

今回から、CSR報告書を「統合レポート」と改名し発行しました。これは投資家様に対しての情報発信ツール「統合報告書」発行に向けた道程とするためです。当社は、2017年度から「守りのCSR(法令順守、社会貢献活動)」に加え「攻めのCSR・CSV(共通価値の創造)」に積極的に取り組んできました。グンゼ流に言い換えれば「創業の精神」の実践となります。まずは構成員の具体的な行動を促すためにマテリアリティを特定した上で、SDGsとの関連付けをし、アウトサイドインの考え方を全員が共有できる仕掛けにしました。2018年度では、CSR推進単位で中期経営計画(CAN 20)終了時点のKPI(重要業績評価指標)を定め、CSVの実践に取り組んでまいります。グンゼグループの製品・サービスがお客さまのこころよさを実現できるよう、高野先生には引き続きご指導をお願いいたします。



コーポレートコミュニケーション部長  
小倉 誠

| 概要           |   |
|--------------|---|
| 創立           | 1896年(明治29年)8月10日   |
| 大阪本社         | 〒530-0001<br>大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号<br>ハービスOSAKAオフィスタワー<br>TEL (06) 6348-1313(代表) |
| 登記上の本店       | 〒623-8511<br>京都府綾部市青野町膳所1番地   |
| 東京支社         | 〒103-0027<br>東京都中央区日本橋二丁目10番4号<br>グンゼ日本橋ビル<br>TEL (03) 3276-8710(代表)          |
| 決算期          | 3月  |
| 発行可能株式の総数    | 50,000,000株   |
| 発行済株式の総数     | 20,993,516株   |
| 資本金          | 26,071百万円   |
| 株主数          | 22,941名   |
| グンゼグループ会社数   | 国内 30社<br>海外 35社  |
| 従業員数         | 1,757名(単体)<br>6,754名(連結)  |
| 上場証券取引所      | 東京(第1部)   |
| 証券コード        | 3002  |
| 株主名簿管理人      | 三菱UFJ信託銀行株式会社   |
| 配当           | 配当額は、通常6月に決議され、支払われます。  |
| 株主・投資家への情報提供 | 会社案内<br>グンゼ統合レポート<br>決算短信<br>有価証券報告書<br>IRチャートジェネレーター(WEB)                    |
| 定時株主総会       | 毎年6月末までに開催  |
| ウェブサイト       | ホームページでは、企業情報や製品・サービス情報を掲載しています。最新の決算情報やニュースリリースがご覧いただけます。                    |
| IR窓口         | 〒530-0001<br>大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号<br>ハービスOSAKAオフィスタワー                           |

2018年3月31日現在

- 1896 創業者・波多野鶴吉が地域産業振興を目的に京都府何鹿郡(現:京都府綾部市)に都製糸株式会社を設立
- 1900 パリ万国博覧会において金牌を受賞
- 1902 輸出生糸を米国スキンナー商會に特約販売開始
- 1909 正量取引を開始
- 1917 郡是女学校設置
- 1933 ニューヨークにグンゼシルクコーポレーション設立
- 1934 塚口絹製品工場でフルファッションの靴下生産開始
- 1946 宮津工場でメリヤス肌着の生産開始
- 1954 ミシン糸事業開始(現:織維資材事業部)
- 1962 プラスチック事業開始
- 1965 ファンデーション(婦人下着)事業開始
- 1967 社名をグンゼ株式会社に変更
- 1968 パンティストッキングの生産開始
- 1973 緑化事業開始(現:グンゼグリーン株式会社)
- 1974 グンゼ包装システム株式会社設立(プラスチックフィルムの印刷加工・販売)
- 1976 「社是」制定
- 1977 パジャマセンター設置(現:ハウスカジュアルセンター)
- 1983 エンジニアリングプラスチックス事業開始
- 1984 グンゼスポーツ株式会社設立
- 1985 メディカル開発室設置(現:メディカル事業部)電子部品事業開始つかしん(塚口工場跡地)オープン
- 1989 SOZ事業本部設置(現:メカトロ事業部)
- 1992 グンゼコーポレートブランドロゴの制定
- 1996 創立100周年(グンゼ博物苑 オープン)
- 1998 電子部品事業部設置・エンブラ事業部設置
- 2003 株式会社つかしんタウンクリエイイト設立(ショッピングセンターの運営・管理)
- 2007 グンゼエンジニアリング株式会社設立(エンジニアリング・省エネサービス事業)
- 2013 「明日をもっと、ここちよく」ブランドステートメント制定
- 2014 QOL研究所設立あやべグンゼスクエア オープン
- 2015 大阪市女性活躍リーディングカンパニーに認定
- 2016 株式会社ジーンズ・カジュアル ダンを子会社化
- 2017 大阪府と包括連携協定を締結グンゼメディカルジャパン株式会社設立(メディカル材料の販売)